

インド洋大津波と東日本大震災の比較

～はじめに～

夏休み前に、1・2年生全員を対象に『インド洋大津波と東日本大震災の比較』という題名で、スライド写真や動画を見てもらいました。

その中では、**インドネシア・アチェ州の人々**の生活や文化・自然、そして日本人にはなじみのないイスラム教、等々を紹介した上で、2004年のインド洋大津波による被災状況や復興の現状・未来に向けての活動等を紹介しました（「1. 思いやりの心と笑顔の地ーアチェ」）。

この後、地元の人達にとって身近な自然環境であるマングローブの役割や日本が関連するマングローブの減少・シムル島の口承伝承などについて紹介（「2. 身近な自然環境を活用した防災・減災 ～マングローブの役割～」）し、さらに、日本における防災林の役割を中心に、Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）について紹介（「3. 身近な自然環境を活用した防災・減災 ～日本の防災林～」）する予定です。

今回の『グローバル（グローバル&ローカル）宮水』は、夏休み前に実施した授業の内容を、「確認プリント」の解答と使用したスライドの一部、それから、**みなさんに書いてもらった「感想」**等を紹介しながら振り返ってみたいと思います。

最初に、「確認プリント」の（1）についてです。

（1）現在のあなたは、「東日本大震災」や「津波」・「防災」というような言葉について、どのような意識をもっていますか。次の中から1つを選び○をしてください。

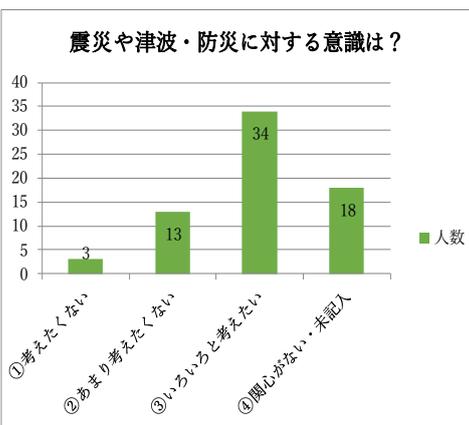
- ①考えたくない ②あまり考えたくない ③いろいろと考えたい ④関心が無い

結果は下のグラフのようになりました。（参考として、山田高校における2016年度の結果と宮古北高校における2020年度の結果も掲載します。）

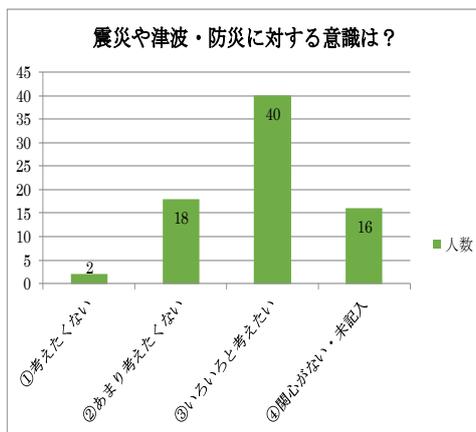
宮古水産高校と他の2校（宮古北高校、山田高校）におけるアンケート対象者は、人数や学年構成・震災後の年数・被災状況等々が異なるので単純に比較はできませんが、一見して分かるのは、いずれの高校でも③の『いろいろと考えたい』が一番多いことです（宮古水産高校：50%、宮古北高校：約53%、山田高校：約45%）。また、2013年に宮古高校で、2019年に岩泉高校で実施した同様のアンケートでも『いろいろと考えたい』人が一番多いようです。しかし、どの高校・どの年代でも「考えたくない」「あまり考えたくない」という人も少なからずいるので、**震災によるストレスを感じている人も多いと言えます。宮古水産高校に特徴的な点は「関心が無い」人が多いこと**でしょうか。これは宮水以外でも年々増えているようで、小さい頃から「震災」「震災」と言われ続けてきて嫌になっている人がいるのかも知れません。

今回の内容は、皆さんにとっては物理的にも心理的にも遠い国・地域かもしれない**インドネシア・アチェ州の人々の生活・文化や豊かな自然**を紹介した上で、**自然災害への対応の仕方や考え方、身近な自然環境を活用した防災・減災について情報を提供する**ものです。『いろいろと考えたい』人にも『（あまり）考えたくない・関心が無い』人にも参考になると思います。

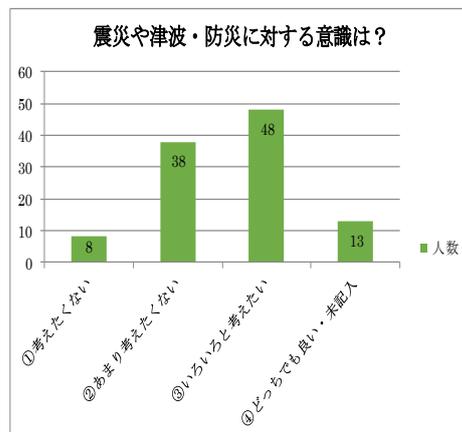
宮古水産高校（2022年）



宮古北高校（2020年）



山田高校（2016年）



インド洋大津波と東日本大震災の比較：思いやりの心と笑顔の地—アチェ ①

「確認プリント」の（2）の解答です。

（2）インドネシアの人口は約（**2億3千万**）人、約（**300**）の民族、約17600の島々、等々（**多様**）性の国である。

多様性の国インドネシア

（人口2億3千万、約300の民族、約17600の島々、等々）



インドネシアの祝日（2012年）

- 1月1日新年
- 1月23日イムレック(中国暦新年)
- 2月5日マウリッド(ムハンマド生誕祭)
- 3月23日ニュピ(サカ暦新年)(ヒンドゥー教の暦)
- 4月6日キリスト受難日
- 5月6日ワイサック(仏教大祭)
- 5月17日キリスト昇天祭 18日一斉休暇日
- 6月17日イスラ・ミラジ(ムハンマド昇天祭)
- 8月17日インドネシア共和国独立宣言記念日
- 8月19/20日イドル・フィトリ(断食明け) 21/22日一斉休暇日
- 10月26日イドル・アドハ(犠牲祭)
- 11月15日イスラム暦新年 16日一斉休暇日
- 12月24日一斉休暇日
- 12月25日クリスマス(キリスト生誕祭)

- アチェ州は、スマトラ島の西端（左図の青い矢印の先）。
- インドネシアの祝日は、多様性を反映している。右表の緑の字はイスラム教に、茶色い字はキリスト教に、紫色の字はヒンドゥー教に、青色の字は仏教に、赤色の字は中華系の人々に、配慮。

「確認プリント」の（3）～（5）の解答です。

（3）インドネシアの中でもアチェ州は（**イスラム**）教徒が約99%を占めている。

（4）インドネシアの通貨の単位は（**ルピア**）である。

（5）串焼きの名前は（**サテ**）といい、ニワトリや（**ヤギ**）などが使われている。また、麺は（**ミー**）、ご飯は（**ナシ**）、焼くは（**ゴレン**）という。

サテ（串焼き）を食べる私



ナシゴレン（美味しい!）



白いご飯とナマズカレー



【感想】

- 1) 国によって違う文化があるけれど、思いやりの心で協力しあい、すごいと思いました。「思いやりの心」が大切ということが分かりました。（1年 Aさん）
- 2) 聞いたことがある言葉がいくつかありました。文化の違いを知って驚いたところもあるけど、いい所なんだな、と思いました。（2年 Hさん）
- 3) インドネシアの食文化や宗教など、いろいろ知ることができました。すごくおもしろかったです。思いやりと笑顔がとても大切だと思いました。（2年 Iさん）

インド洋大津波と東日本大震災の比較：思いやりの心と笑顔の地—アチェ ②

「確認プリント」の（6）～（9）の解答です。

- （6）アチェでは、水道は普及しているようだが、その水を飲料水としては使わない。飲料水としては、（ **ミネラル** ）ウォーターを購入している。
- （7）『果物の王様』とも言われる（ **ドリアン** ）は、独特の濃厚な味と甘さで人気が高いが、その強烈な臭気により、ホテルに持ち込むことはできない。
- （8）インドネシアは水が豊富なこともあり、一般的なトイレは手動式（ **ウォッシュレット** ）である。
- （9）毛むくじゃらの赤い（ **ランブータン** ）の果肉は甘く、とてもジューシーである。

マンゴスチン、ランブータン等



果物の王様(?)ドリアン



手動式ウォッシュレット



「確認プリント」の（10）～（12）の解答です。

- （10）アチェの伝統的な家屋は、暑さ対策、（ **洪水** ）対策、猛獣対策、等のため、（ **高床** ）式の家が多い。
- （11）イスラム教徒が多いアチェでは、忌避動物である（ **ブタ** ）はもちろん、縁起が悪い（？）と考えられている（ **イヌ** ）の姿も見ない。
- （12）魚市場では日本でもおなじみのマグロや（ **カツオ** ）、イカ、貝、（ **エビ** ）、など様々な魚介類が売られている。

高床式の民家



台所の床



ネコをたくさん見かける 魚市場には馴染みの魚も多い



【感想】

- 1) トイレの仕方が独特だったなと思った。（2年 Kさん）
- 2) いろいろな生き物がいて、日本とは違う生活をしていて、興味深かった。津波に対する考え方の違いが分かった。（2年 Oさん）

インド洋大津波と東日本大震災の比較：思いやりの心と笑顔の地—アチェ ③

「確認プリント」の（13）～（14）の解答です。

- （13）イスラム教では、唯一絶対の存在が（ **アッラー** ）である。また、最後にして最も偉大な（ **預言** ）者がムハンマドである。
- （14）イスラム教では、「一夫（ **多妻** ）」や女性は「（ **手** ）と（ **顔** ）以外の素肌を隠すなど、男尊女卑(?)の習慣があるが、本来の意味は女性を守るためである。

女子中学生（とても明るい）



正午の礼拝



イスラーム(イスラム教)
西暦610年～

アッラー	預言者ムハンマド
クルアーン	1日5回の礼拝
断食(ラマダン)	喜捨
平等主義	マッカ巡礼
一夫多妻	お酒・豚肉はダメ
女性は手・顔以外を隠す	
イスラームとしての責務を果たす	

【感想】

- 1) イスラム教の人は怖い人が多いイメージだったが、笑顔が素敵な心優しい人が多いことが分かった。（1年 Kさん）
 - 2) 宗教的な考え方もあるが、日本とアチェでは防災対策が違うんだなと思った。（1年 Sさん）
 - 3) アチェの人々は、みんな平等にアッラーの預言（クルアーン）を受け入れて暮らしているということが分かったし、思いやりの心がある人たちが多く、笑顔が溢れていていいな、と思いました。（1年 Sさん）
 - 4) イスラム教の断食（ラマダン）は、貧しい人やごはんを食べれていない人などの気持ちが分かるように、神（アッラー）が作ったということを知ることができた。（1年 Hさん）
 - 5) 笑顔がとても良くて、初見でも良い人だと伝わりました。物価が安くて良いと思いました。トイレは少し嫌でした。（2年 Iさん）
- ・「**OMOIYARIのうた**」は、藤田恵美さんという方が作詞・作曲した歌です。『You Tube』に、アチェで歌われている動画があるのですが、その中に「この歌は東日本大震災の津波による被災地岩手県大槌町の女性がアチェを訪ね教えていったそうです」というキャプションが入っています。

**日本語で駄洒落も言う敬虔な
イスラム教徒のメックスさん**



伝統的ダンスを踊る男子高生



「OMOIYARIのうた」



インド洋大津波と東日本大震災の比較：思いやりの心と笑顔の地—アチェ ④

以下に、「**OMOIYARIのうた**」の歌詞を載せます。

著作権の関係で掲載できません。

詳しい内容を知りたい方は、下記
まで、ご連絡ください。

(ptf60-j-ogasawara@iwate-ed.jp)

笑顔の女子中学生



素敵な笑顔のフロントの女性



いつも笑顔のオジさん



【感想】

- 1) 『OMOIYARIのうた』に、とても感動しました。「地震の後に津波が来る」ということが伝承されていなかったことに驚きました。←（「神様が起こすもの」という考えだったから、後世に伝えられることがなかったのかな・・・）（1年 Kさん）
- 2) アチェの人々の生活を知ることができた。インドネシアであった大津波について知り、どんなだったのかを想像できた。（1年 Sさん）
- 3) 日本人と顔が似ていた。毎年3月11日にこの歌を唄ってくれていることが、すごい嬉しかった。（1年 Kさん）
- 4) 遠く離れた国で文化や生活の違いがあっても、それぞれの良さがたくさんあるんだなと思った。ある程度防災を行っていた日本と、ほとんど防災を行っていなかったアチェで被害の大きさが違うと分かって、しっかり防災しようと思った。（1年 Kさん）
- 5) 津波は後の世代の人にも伝えていかないとダメだと思った。日本語の歌を唄ってくれているのが嬉しかった。（1年 Iさん）

インド洋大津波と東日本大震災の比較：思いやりの心と笑顔の地—アチェ ⑤

「確認プリント」の（15）～（17）の解答です。

（15）（ **2004** ）年のインド洋大津波の被災者を埋葬している（ **シロン** ）津波犠牲者集団墓地には、遺体が入った白い袋が（ **46,718** ）袋埋葬されている。

（16）イスラム教では亡くなった時、火葬ではなく（ **土葬** ）で遺体を葬る。

（17）インド洋大津波により流され、民家の2階に乗り上げて止まった船は、（ **59** ）名の人命を助けたため『（ **ノア** ）の箱船』と呼ばれ、保存されている。

**シロン津波犠牲者集団墓地 2haの敷地に46,718袋が埋葬
(4つの集団墓地の中で最大) (約6mの深さ。遺体の身元は不明)**

**巨大な津波(?)
のモニュメント**



震災時の『ノアの箱船』

補強された現在の『ノアの箱船』

**ガヤさん（被災時の状況を
週に3日、各2回語る）**



2004年に発生した**インド洋大津波**により、インド洋沿岸地域で約**23万人**の方が亡くなったといわれていますが、震源地のすぐそばに位置する**アチェ州**では約**16万人**が犠牲になったということです。**シロン津波犠牲者集団墓地**は、4つある集団墓地の中では最大規模で、**46,718袋**（1袋に複数遺体を入れた場合もあったそう）が埋葬されています。イスラム教徒の多くは、**津波はアッラーが起こしたもので、「津波により平和が訪れた（独立闘争を終わらせた）」**と考えるそうです。「人間の生死はアッラーが決めることで仕方がない」と考え、「あの時こうしていれば良かった」等の後悔はせず、**前に向かって進んでいく**ようです。

『**ノアの箱船**』は、インド洋大津波の際に流されてきた船に跳び乗り**59名**の方が助かったというものです。2010年に開館した津波博物館で、**涙を流しながら当時の状況を話してくれたガヤさん**（上右の写真）も助かったうちの一人です。「悲しい体験を話すのは辛くないですか？」という私の質問に、「話すのは、イスラム教徒としての責務です」と答えていました。

【感想】

- 1) 小さい頃のこととはあまり覚えていないけど、震災のことはよく覚えています。他県の人や他国の方が励ましてくれたことは、すごく嬉しかったです。（2年 1さん）
- 2) 東日本大震災はとても辛かったです。たくさんの国が被害に遭っていることが分かりました。（2年 Sさん）

インド洋大津波と東日本大震災の比較：思いやりの心と笑顔の地—アチェ ⑥

「確認プリント」の（18）～（19）の解答です。

（18）アチェのほとんどの地域では、『地震の後に（ **津波** ）が来る』という伝承や（ **教育** ）がほとんどなかったため、約16万人の方々が亡くなった。

（19）アチェの人々の心の拠り所はイスラム教であり、（ **思いやり** ）の心や（ **笑顔** ）も、そこから発していると考えられる。

『ノアの箱船』をはじめ、『津波博物館』や『津波の浸水高を示す塔』など**アチェの人々が震災の記録を残そうとしていることをいろいろな場面で強く感じました**。その理由として考えられることがあります。

右に、津波博物館に展示されていた1枚の絵を大きく掲載しました。

絵の中央下の人が持っている白いものや、右側の海底だった所に見える白いものは魚です。実は、アチェのほとんどの地域では、約100年前にも大津波があったにも関わらず『地震の後に、津波が来る』という**伝承や教育がほとんど無かった**ようで、津波が来る前兆として潮が大きく引き、**魚が跳ねているのを捕まえにいった人々も多くいた**ようです。そのため、東日本大震災と同じ位の規模の津波により**約16万人の方々が亡くなりました**。その悔やんでも悔やみきれない反省を踏まえて、**震災の記録を残すことに全力を傾けているように感じました**。

魚を持って逃げる人の絵（津波博物館）

被災後に『ノアの箱船』の近くでカツオ節工場を起業した女性に、「今の楽しみは何ですか？」という質問をしたところ、「**楽しみは、自分の家族を自立できるようにすること、世の中の役に立つこと、儲けることで困っている人や職の無い人など他の人々のために役に立つこと。**」と答えていました。個人の想いであるとともに、アチェの人たちの約99%が信仰する**イスラム教の考え方（「困っている人や弱い人等を助ける」）**も反映されていると私には感じられました。**現在のアチェは、「思いやりの心と笑顔」が溢れています**（下の写真参照）。

【感想】

- 1) アチェの人々の思いやりの心や、みんな笑顔なのがとても良いと思った。これからも教育や伝承をつないでいく必要がある。（1年 Sさん）
- 2) インドネシアにも東日本大震災のような津波が来ていたと分かった。16万人もの人が亡くなって、もし教育をしていれば、と考えると教育は大事だと思った。（2年 Hさん）

**インド洋大津波発生日時に、お祈りを 校長先生をはやし立てる
笑顔でバイクに乗る女性達 捧げる女性（『じゃかるた新聞』より） 女子高生たち**



著作権の関係で掲載できません。

詳しい内容を知りたい方は、下記まで、ご連絡ください。

(ptf60-j-ogasawara@iwate-ed.jp)

